

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 宮崎県 |
|-------|-----|

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

| | | | | | | | | | |
|-----|------------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 国富町立 本庄小学校 | | | | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 | 1 | 18 | 25 |
| 児童数 | 69 | 89 | 89 | 79 | 86 | 90 | 4 | 506 | |

II 研究の概要

1 研究主題

| |
|--|
| <p>確かな学力を身に付け、生き生きと学習する児童の育成 ～基礎・基本の確実な定着を図る学習指導法の工夫・改善を通して～</p> |
|--|

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| <p>【国語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1学年～第6学年 「読む」「書く」「話す・聞く」などの基礎学力のもとになる教科であるため。また、児童の実態として、国語の学力を身に付けさせる必要があったため。 <p>【算数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1学年～第6学年（第3学年～第6学年は、少人数指導） 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。また、第3・4学年に1人、第5・6学年に1人の少人数指導担当の教員が加配されているので、研究内容の1つとして取り組むため。 <p>【社会科・理科・図画工作科・家庭科（一部教科担任）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5・6学年 教師の得意分野を生かし、児童一人一人の実態に応じた指導を行うため。 |
|---|

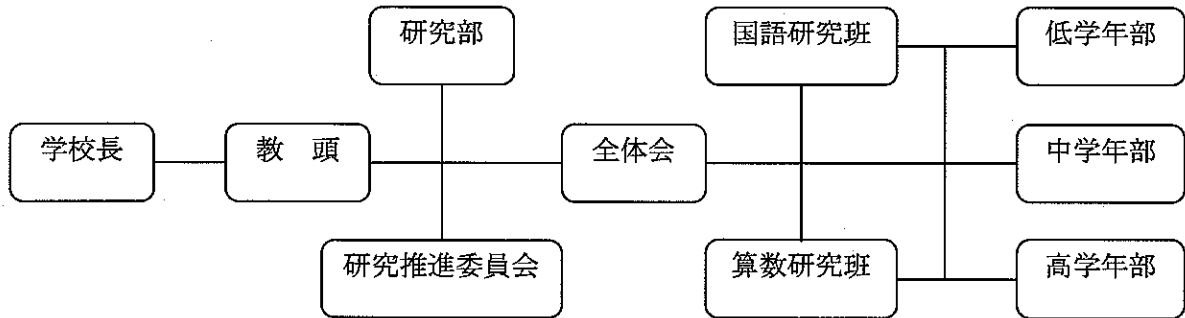
(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>○ テーマ 確かな学力を身に付け、生き生きと学習する児童の育成 ～基礎・基本の確実な定着を図る学習指導法の工夫・改善を通して</p> |
| | <p>○ 研究の見通し（仮説）</p> <p>【仮説1】 国語科において、児童の基礎学力の実態を調査するとともに、その結果を分析して重点化を図り、繰り返し指導や個に応じた指導、評価法の工夫・改善を行えば、児童が確かな学力を身に付け、生き生きと学習活動に取り組むであろう。</p> <p>【仮説2】 算数科において、児童の基礎学力の実態を調査するとともに、その結果を分析して重点化を図り、繰り返し指導やきめ細かな指導、評価法の工夫・改善を行えば、児童が確かな学力を身に付け、生き生きと学習活動に取り組むであろう。</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>○ 研究の内容・方法</p> <p>① 基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書・チャレンジタイムの設定，家庭における学習習慣の形成 <p>② きめ細かな指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り返し指導の実践，少人数指導の実践，習熟度別学習の実践と評価 <p>【少人数指導】</p> <p>第3・4学年「算数科」，第5・6学年「算数科」</p> <p>③ 教科担任制の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部教科担任制の導入，一部教科担任制に関する意識調査・反省 <p>【一部教科担任制】</p> <p>第5学年 A教諭…社会科 B教諭…理科 C教諭…図画工作科・家庭科 第6学年 A教諭…社会科 B教諭…理科 C教諭…図画工作科・家庭科</p> <p>④ 研究成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究誌配布，ホームページの作成 |
|--|---|

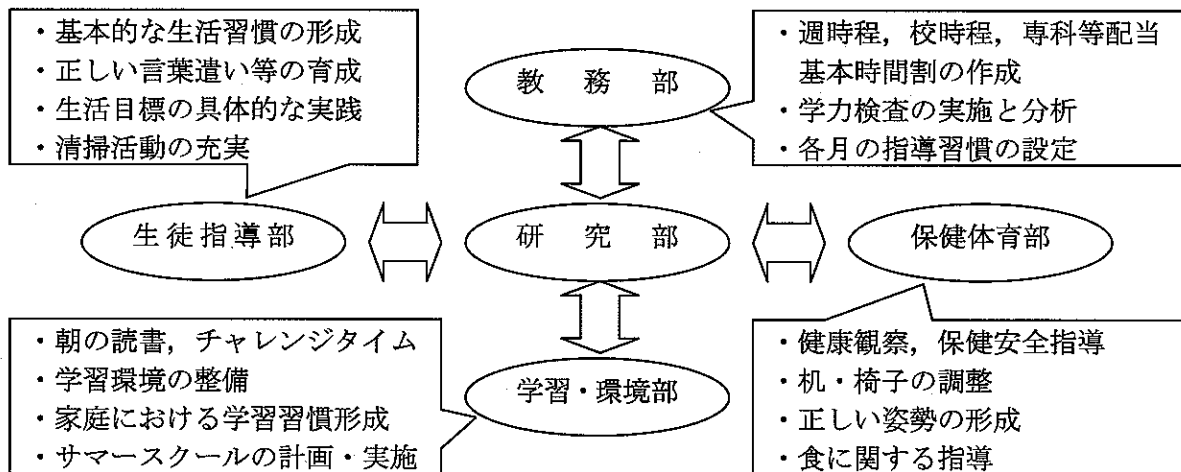
| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>○ テーマ</p> <p>確かな学力を身に付け，生き生きと学習する児童の育成 ～基礎・基本の確実な定着を図る学習指導法の工夫・改善を通して</p> <p>○ 研究の見通し（仮説）</p> <p>【仮説1】</p> <p>国語科において，一斉指導でできる児童一人一人の実態に応じた指導を充実させるとともに，児童の学力の評価を生かした指導の改善を行えば，児童一人一人が確かな学力を身に付け，生き生きと学習活動に取り組むであろう。</p> <p>【仮説2】</p> <p>算数科において，児童一人一人の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を充実させるとともに，児童の学力の評価を生かした指導の改善を行えば，児童一人一人が確かな学力を身に付け，生き生きと学習活動に取り組むであろう。</p> <p>○ 研究の内容・方法</p> <p>① 基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書・チャレンジタイムの充実，家庭における学習習慣の充実，わかる授業にするための指導方法の充実 <p>② きめ細かな指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 補充的な学習のための教材開発，発展的な学習のための教材開発，少人数指導の特質を生かした評価の工夫 <p>【少人数指導】</p> <p>第3・4学年「算数科」，第5・6学年「算数科」〔未定〕</p> <p>③ 教科担任制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部教科担任制の充実，一部教科担任制における評価の工夫 <p>【一部教科担任制】</p> <p>第5学年 A教諭…社会科・図画工作科 B教諭…理科・家庭科 第6学年 A教諭…社会科 B教諭…理科 C教諭…図画工作科・家庭科 〔未定〕</p> <p>④ 研究成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域との連携，公開授業の実施，研究誌配布，ホームページの充実 |
|--------|--|

(3) 研究推進体制

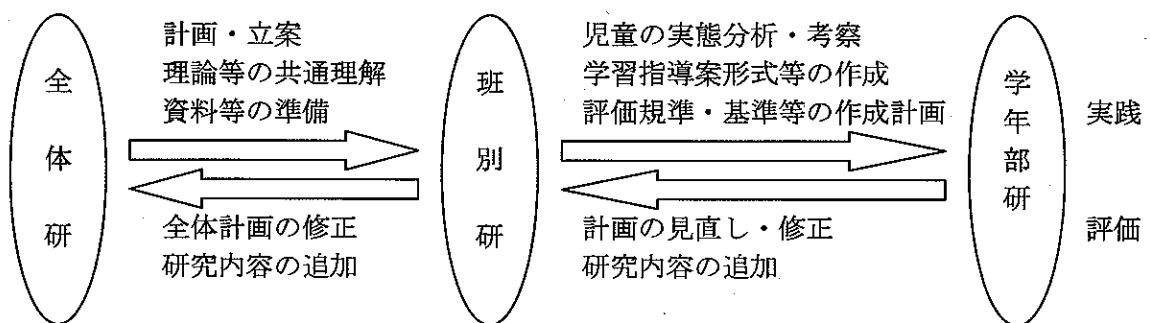


○ 組織間の連携

- ・ 各校務部との連携



- ・ 研究の各組織間の連携



III 平成15年度の研究の成果と課題

1 研究の成果

- 児童は、朝の読書の時間（週3回）を楽しみにしており、始まりと同時に静かな雰囲気の中で集中して読書することができるようになってきた。また、日常的な読書活動も以前よりも活発になり、読書量も増えている。
- チャレンジタイム（週1回）では、学年の実態に応じて計算問題を中心に繰り返し指導に取り組んできた結果、正答率は徐々に高くなり、計算にかかる時間も短くなった。
- 国語科において、児童の実態や学習内容に応じて指導過程を工夫したり、ワークシートやヒントカードを準備したりしたことで、つまずきや個人差にきめ細かに対応することが

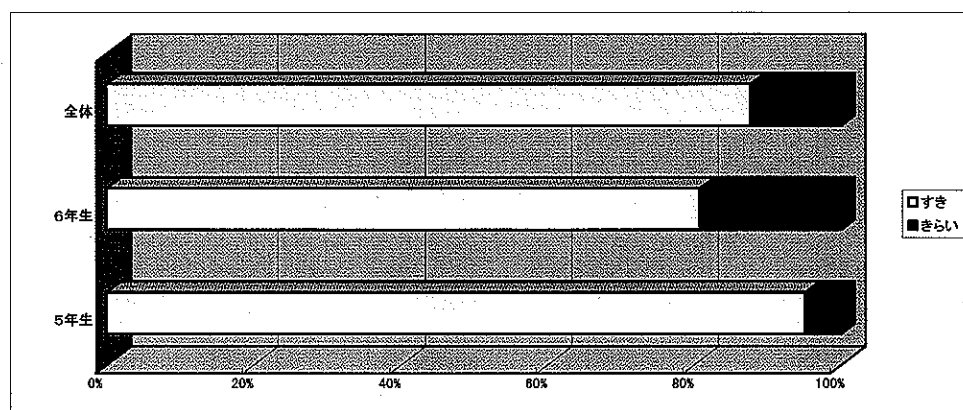
できた。

- 算数科において、児童の実態や学習内容に応じて少人数指導を工夫したり、必要に応じて習熟度別指導を実施したりしたことで、児童が自分にあったコースで効率的に学習を進められるようになった。
- 高学年における一部教科担任制では、各教師が特定の教科を受け持つことで、教材研究にじっくり取り組むことができ、よりよい授業を展開することができた。また、これまでの学級単位での学習と違い、複数の教師で学年の児童を育てていくという意識が高まり、学年経営に生かされるようになった。

さらに、一部教科担任制に対する児童の意識調査の結果を見ると、高学年における一部教科担任制に対して肯定的な児童が多いということがわかる。

【一部教科担任制に関する児童の意識調査より】

Q： いろいろな先生から教えてもらうのは、好きですか？



2 今後の課題

- 学級担任による一斉授業の中でできる、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導について研究を深めていく必要がある。
- 算数科の習熟度別学習における発展的な学習や補充的な学習の教材開発を進めるために、児童の実態把握や単元指導計画の見直しを十分に行う必要がある。
- 本年度実施した一部教科担任制の反省に基づき、来年度の一部教科担任制について検討を行う必要がある。来年度実施する学年の学級数や専科等との関係もあり、毎年同じような形で実施できないということも事実である。教師の専門性を生かすという点でも、学校全体での検討が不可欠である。
- 指導と評価の一体化のために、より適切で効率的な評価方法を検討していく必要がある。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 国語科と算数科に対する児童の意識調査、家庭学習に関するアンケート調査を1学期に実施した。3学期中に同じ内容で調査を行い、児童の意識や取組の変容を見る予定である。
- ・ CRT学力検査(国語科・算数科)を毎年1回3学期に実施し、児童の学力の実態を把握するとともに、落込みが見られる部分の繰り返し指導に生かしている。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ ホームページを作成したり研究紀要を配布したりして、研究の実践を他校へ公開する。
- ・ 家庭向けのパンフレットを配布したり、研究に関する通信を定期的に発行したりする。
- ・ 平成16年度に公開研究発表会を実施する。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校

【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7～12学級
 ■ 13～18学級 □ 19～24学級
 □ 25学級以上

【指導体制】 ■ 少人数指導 □ T. Tによる指導
 ■ 一部教科担任制 □ その他

【研究教科】 ■ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無